

全国水生生物調査の結果について(平成 30 年度)



環境省と国土交通省は、水生生物を指標とした河川水質の総合的評価及び環境問題への関心を高めることを目的に、昭和 59 年度から全国水生生物調査を実施しています。平成 30 年度は小中学校や市民団体などの参加を得て、50,803 人の参加により、全国 1,951 地点で調査が実施されました。

調査結果としては、全体の 65%でサワガニやカワゲラ類等の指標生物の生息が確認され、「きれいな水」と判定されました。なお、判定は河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、Ⅰ(きれいな水)、Ⅱ(ややきれいな水)、Ⅲ(きたない水)、Ⅳ(大変きたない水)の4階級で行われました。

河川に生息するサワガニやカワゲラ類などの水生生物の生息状況は、水質汚濁の影響を反映する事から、それらの水生生物を指標として水質を判定することが出来ます。このような調査は、高価な機材等を要しないことから誰でも簡単に参加できるという利点があり、調査を通じて身近な自然に接することにより、環境問題への関心を高める機会にもなっています。一級河川では約 95 %が「きれいな水」または「ややきれいな水」と判定され、その他の河川(同 85 %)と比較して高い数字となっています。なお、令和元年度も引き続き、全国水生生物調査を実施するとのことです。

当社では、河川や排水の分析について多くの実績と経験があります。ご不明な点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

資料 [2019年6月3日付 環境省報道発表資料](#)

環境検査箇所 武井友宏

